

ガイドラインとしての一般文字学

吉池孝一

漢字、ラテン文字、仮名文字、パスパ文字、契丹文字など様々な文字がある。これらの文字の研究を、個別の文字の研究すなわち「個別文字学」として、漢字学・パスパ文字学などとすることができる。一方、個別文字の研究を進める上でのガイドラインを「一般文字学」と呼びたい。このように呼び分けることが許されるならば、文字の学問すなわち「文字学」は、ガイドラインである一般文字学と、それを利用して行われる個別文字学からなる。

以下にガイドラインとしての一般文字学の項目を候補として挙げる(西田 1986 参照)。個々の項目のなかにおいて、個別文字研究にとって参考となる情報を提示することになる。なお、それぞれの文字は、①文字を組み立てる要素(字素)とそれによって作られる各種の単位、②単位間の示差と示同の方法、③要素および単位を組み合わせる方法、④単位を利用して語音や語義を表す方法、⑤単位を配列して文を作る方法の五つにおいて、一定の特徴を持って緩やかなまとまりを成している。これを文字組織と呼ぶ(吉池 2008 参照)。文字の研究はこの文字組織の研究が基となる。

1.組織研究

- 1.1.字素、各種単位
- 1.2.示差・示同法
- 1.3.単位の組み合わせ法
- 1.4.表音法、表意法
- 1.5.配列法

2.歴史研究

3.比較研究(他言語表記の問題を含む)

4.対照研究

5.研究史(解読史を含む)

6.周縁研究

- 6.1.教育
- 6.2.書写材料・用具、書写方法
- 6.3.二次的用途(書道、デザイン、その他)

参考文献

- 西田龍雄 1998.「言葉と文字 ―文字学―」,『言語学を学ぶ人のために』世界思想社, 220-254 頁。初版 1986。  
吉池孝一 2008.「中国周辺の文字」,『歴史学事典【第15巻 コミュニケーション】』弘文堂, 441-446 頁。